



きはんいしき 子どもの規範意識があぶない！！



小中学校では2学期が始まって約3週間がたちました。学校生活での規則正しい生活が戻ってきたでしょうか。

そこで、『規範意識』についての情報提供です。『規範意識』とは、道徳、倫理、法律等の社会のルールを守ろうとする意識のことです。日南町の子どもたちも規範意識が希薄なってきました。

1学期に、「バスの中がうるさくて、もう乗りたくない。」「運転手さんが注意しても、素直に聞かず、文句を言う。」等、社会ルールを守ろうとしない子どもたちの様子が学校支援ボランティアさんとの会で語られました。

また、昨年度の標準学力調査の児童生徒のアンケートでは、「学校の規則やクラスで話し合っただけを守っていますか。」という質問に否定的に答えた児童生徒の割合は、全国に比べて非常に高い傾向にあります。最も高い学年で34.6%、平均すると22.4%が守らなくてもよいと答えているのです。

日南町は全国の傾向と逆で、年齢が高くなるにしたがって、規範意識も高くなるという結果です。幼児期にしっかりと社会ルールや善悪の判断を教えたいものです。

規範意識を身につけ

幼児から小学校低学年では、教えて伸ばす指導が必要です。行動の内容や意義を教えて、できたら誉め、できなければさとし、何度も取り組ませて、自ら行動できるように育てることが基本となります。

例として、「あいさつをすること」を取り上げると、①あいさつの意義や仕方を教える。(教えなければ身につかない)②あいさつができればほめる。できなければさとし。③毎日繰り返す。④習慣化させるために、行為の過程(プロセス)をほめる。こうした、指導が有効とされています。

小学校低学年から中学年では、形から入るなど他律的な指導が有効です。小学校高学年から中学生では、自己決定や協議による選択決定の場を設定し、自分で自分をコントロールできる力や主体性を育む取組が重要です。

※参考：＜子どもの中に育てたい「心の活力」を一体的に描く：東京学芸大学教授 永田繁雄氏＞



♪♪♪ ゆびきりげんまん、うそついたら針千本の～ます ♪♪♪

むかしの人は歌で教えました。「約束を破ったら指を切るぞ、げんこつを一万回だぞ、針千本のますぞ」と、約束を守ることがいかに大事か、うそをつくことがいかにいけないことかを、教えました。